

## 主務大臣評価素案（たたき台）

## 総合評定

評定（S、A、B、C、D）	B （成果の創出や将来的な成果の創出の期待等 が認められ、着実な業務運営がなされている。）
<p data-bbox="172 481 459 515"><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p data-bbox="164 548 1433 716">法人全体に対する評価に示すとおり、福島国際研究教育機構（F-REI）の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められ、着実な業務運営がなされているため。</p> <p data-bbox="172 817 526 851"><b>&lt;法人全体に対する評価&gt;</b></p> <p data-bbox="164 884 1433 1198">F-REI 設立初年度である令和 5 年度は、まさに新設法人として前例のないスタートであり、施設も未整備かつ限られた人員体制の厳しい環境の中で、理事長の明確なビジョンと強いリーダーシップの下、「創造的復興の中核拠点」を目指して、研究開発・産業化・人材育成・司令塔機能のそれぞれに関して精力的な取組を進めており、項目別評定においては、一部の項目において顕著な成果が見受けられており、福島をはじめとする東北の復興の実現や設置効果の広域的な波及等に向けて大きな一歩を踏み出したものと評価できる。全体として中期目標等に定められた水準と同程度の着実な業績の進捗・成果が認められると総括する。</p> <p data-bbox="172 1299 718 1332"><b>&lt;項目別評価の主な課題、改善事項等&gt;</b></p> <p data-bbox="164 1366 1433 1489">○「創造的復興の中核拠点」となることを目指し、「基盤作りと存在感の提示」に重点を置きながら、研究開発・産業化・人材育成・司令塔の各機能を最大限発揮できるよう、NO.1 以降の各項目で指摘した課題等への対応を含め、F-REI の総力を挙げて取組が進められることを期待する。</p>	

## 【NO. 1】政策体系における法人の位置付け及び役割等（自己評価書 P4～10）

評定（S、A、B、C、D）	A（自己評価：A）
<p data-bbox="172 259 459 293"><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p data-bbox="164 331 1430 454">以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて顕著な成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められるため。</p> <p data-bbox="164 510 1430 678">施設も研究者も揃っていない、まさにゼロからのスタートとなったが、理事長の明確なビジョンと強いリーダーシップの下、「創造的復興の中核拠点」を目指して、研究開発・産業化・人材育成・司令塔機能のそれぞれに関して精力的に取組を進めており、福島をはじめとする東北の復興の実現や設置効果の広域的な波及等に向けて大きな一歩を踏み出したものと高く評価できる。</p> <ul data-bbox="164 712 1430 1664" style="list-style-type: none"><li>・研究開発に関しては、設立当初から、「F-REI 研究課題設定基本方針（骨太の方針）」を策定し、ビジョン・全体方針・研究分野ごとの取組方針を明らかにした上で、委託研究事業の公募・選定等を適切に行った。あわせて、1の研究グループ（放射生態学ユニット）を構築したほか、分野長・副分野長の任命や、PI の公募等、RA（リサーチ・アドミニストレーター）の公募・採用など研究開発に必要となる体制構築等も着実に進めている。</li><li>・産業化に関しては、市町村座談会をはじめとした様々な取組により、地元市町村及び地元企業等との連携体制の構築や、研究開発及びその成果の産業化に向けた地元のニーズ・シーズの把握等を精力的に進めている。</li><li>・人材育成に関しては、トップセミナーや出前授業、科学実験教室等により、地域の未来を担う若者世代を対象とした取組を精力的に行ったほか、初年度から東北大学医学系研究科と連携講座の開設（連携大学院制度）に関する協定を締結し、具体的な研究人材の育成に向けた取組にも着手しており、次年度以降、継続的に研究人材の育成が進んでいくことが見込まれる。</li><li>・司令塔機能に関しては、新産業創出等研究開発協議会やその下に設置されたWGを着実に開催するとともに、自治体・大学・企業など多様な機関との MOU や包括連携協定等について計画を上回る9件の締結に至っており、今後、研究開発・産業化・人材育成を進めるに当たっての基盤となることが期待される。</li><li>・プレスリリース、HP、メルマガ、SNS などで情報発信をこまめに行っているほか、F-REI 主催の各種イベントにおいて理事長等から F-REI の設立趣旨・ビジョンや研究開発等の取組状況等を分かりやすく伝えるなど、F-REI の認知度向上等に向けた広報・情報発信等を精力的に進めている。</li></ul> <p data-bbox="172 1715 379 1749"><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul data-bbox="164 1783 1430 1906" style="list-style-type: none"><li>・「創造的復興の中核拠点」となることを目指し、「基盤作りと存在感の提示」に重点を置きながら、研究開発・産業化・人材育成・司令塔の各機能を最大限発揮できるよう、NO. 2 以降で指摘した課題への対応を含め、F-REI の総力を挙げて取組が進められることを期待する。</li></ul>	

## 【NO.2】研究開発：ロボット（自己評価書 P11～16）

評定（S、A、B、C、D）	B（自己評価：A）
<p data-bbox="172 277 459 309"><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p data-bbox="172 349 1430 533">以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められ、着実な業務運営がなされているため。</p> <ul data-bbox="172 573 1430 1012" style="list-style-type: none"><li>・「新産業創出等研究開発基本計画」（令和 4 年 8 月 26 日内閣総理大臣決定）、中期目標等を踏まえ、F-REI における研究課題の設定に当たっての方針を定めた「骨太の方針」を策定し、また、研究課題の調整・管理を担わせる分野長等を任命し、F-REI としての研究課題の立案に注力した。</li><li>・上記を踏まえ、具体的な研究課題を設定し、委託研究の公募・選定を行い、計 10 件の研究開発に着手（令和 6 年度の契約締結実績を含む。）するなど、設立初年度の取組として着実に進捗しているものと認められる。</li><li>・自己評価では A 評定であるが、以下に示す点について、更なる対応を期待したい。</li></ul> <p data-bbox="172 1079 379 1111"><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul data-bbox="172 1151 1430 1989" style="list-style-type: none"><li>・設立初年度であり、委託研究の公募・選定に時間を要したことから、大半の予算を繰り越し、特に 1 件の委託研究については令和 6 年度に入ってから着手したところであり、令和 5 年度予算に基づく研究開発の取組が継続している状況である。今後、研究開発が本格的に進められるに当たり、適切な研究開発の進捗管理及び予算執行の適正化を図ることが必要。</li><li>・F-REI の取組に対する地域住民をはじめとした国民の理解を醸成していくよう、実施している研究開発の内容及びその成果の社会実装のイメージについて、分かりやすく情報発信を行うことが必要。</li><li>・F-REI として研究を進めていくため、委託研究からの移行も含め研究グループ体制整備を進めていくことが必要。</li><li>・研究開発の進捗状況等を踏まえつつ、県内での活動や実証フィールド等の活用が図られていくことを期待する。具体的には、福島イノベーション・コースト構想の中核拠点として整備され、令和 7 年 4 月に F-REI に統合される「福島ロボットテストフィールド」の活用を通じて、世界水準の研究とその成果の社会実装・産業化を進め、当設備を利用する他の企業・研究機関との共同研究等によりその成果の最大化を目指すことが必要。</li><li>・今後、研究開発が本格的に進められるに当たり、研究開発成果については、業務実績によるアウトプットにとどまらず、アウトカム・インパクトを含めた自己評価が行われることを期待する。</li></ul>	

### 【NO.3】研究開発：農林水産業（自己評価書 P17～21）

評定（S、A、B、C、D）	B（自己評価：A）
<p data-bbox="172 277 459 309"><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p data-bbox="172 349 1430 533">以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められ、着実な業務運営がなされているため。</p> <ul data-bbox="172 573 1430 1061" style="list-style-type: none"><li data-bbox="172 573 1430 761">・「新産業創出等研究開発基本計画」（令和 4 年 8 月 26 日内閣総理大臣決定）、中期目標等を踏まえ、F-REI における研究課題の設定に当たっての方針を定めた「骨太の方針」を策定し、また、研究課題の調整・管理を担わせる分野長等を任命し、F-REI としての研究課題の立案に注力した。</li><li data-bbox="172 801 1430 990">・上記を踏まえ、具体的な研究課題を設定し、委託研究の公募・選定を行い、計 16 件の研究開発に着手（令和 6 年度の契約締結実績を含む。）するとともに、農林水産分野の先端技術展開事業（予算集約事業）に取り組むなど、設立初年度の取組として着実に進捗しているものと認められる。</li><li data-bbox="172 1025 1430 1061">・自己評価では A 評定であるが、以下に示す点について、更なる対応を期待したい。</li></ul> <p data-bbox="172 1128 379 1160"><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul data-bbox="172 1200 1430 2056" style="list-style-type: none"><li data-bbox="172 1200 1430 1388">・設立初年度であり、委託研究の公募・選定に時間を要したことから、大半の予算を繰り越し、特に 2 件の委託研究については令和 6 年度に入ってから着手したところであり、令和 5 年度予算に基づく研究開発の取組が継続している状況である。今後、研究開発が本格的に進められるに当たり、適切な研究開発の進捗管理及び予算執行の適正化を図ることが必要。</li><li data-bbox="172 1429 1430 1568">・本分野の研究開発においては、気候や土壌条件等、地域によって生産環境が異なることを踏まえ、研究期間中から現場とコミュニケーションをとり、研究の成果が被災地域に速やかに実装されるよう取り組むことが必要。</li><li data-bbox="172 1608 1430 1693">・F-REI の取組に対する地域住民をはじめとした国民の理解を醸成していくよう、実施している研究開発の内容及びその成果の社会実装のイメージについて、分かりやすく情報発信を行うことが必要。</li><li data-bbox="172 1733 1430 1818">・F-REI として研究を進めていくため、委託研究からの移行も含め研究グループ体制整備を進めていくことが必要。</li><li data-bbox="172 1859 1430 1944">・研究開発の進捗状況等を踏まえつつ、県内での活動や実証フィールド等の活用が図られていくことを期待する。</li><li data-bbox="172 1984 1430 2056">・今後、研究開発が本格的に進められるに当たり、研究開発成果については、業務実績によるアウトプットにとどまらず、アウトカム・インパクトを含めた自己評価が行われることを期待する。</li></ul>	

## 【NO.4】研究開発：エネルギー（自己評価書 P22～27）

評定（S、A、B、C、D）	B（自己評価：A）
<p data-bbox="172 277 459 309"><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p data-bbox="172 349 1430 533">以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められ、着実な業務運営がなされているため。</p> <ul data-bbox="172 577 1430 1012" style="list-style-type: none"><li data-bbox="172 577 1430 761">・「新産業創出等研究開発基本計画」（令和 4 年 8 月 26 日内閣総理大臣決定）、中期目標等を踏まえ、F-REI における研究課題の設定に当たっての方針を定めた「骨太の方針」を策定し、また、研究課題の調整・管理を担わせる分野長等を任命し、F-REI としての研究課題の立案に注力した。</li><li data-bbox="172 801 1430 940">・上記を踏まえ、具体的な研究課題を設定し、委託研究の公募・選定を行い、計 11 件の研究開発に着手するとともに、被災地企業等再生可能エネルギー事業（予算集約事業）に取り組むなど、設立初年度の取組として着実に進捗しているものと認められる。</li><li data-bbox="172 981 1430 1012">・自己評価では A 評定であるが、以下に示す点について、更なる対応を期待したい。</li></ul> <p data-bbox="172 1079 379 1111"><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul data-bbox="172 1155 1430 1886" style="list-style-type: none"><li data-bbox="172 1155 1430 1294">・設立初年度であり、委託研究の公募・選定に時間を要したことから、大半の予算を繰り越しており、令和 5 年度予算に基づく研究開発の取組が継続している状況である。今後、研究開発が本格的に進められるに当たり、適切な研究開発の進捗管理及び予算執行の適正化を図ることが必要。</li><li data-bbox="172 1335 1430 1415">・F-REI の取組に対する地域住民をはじめとした国民の理解を醸成していくよう、実施している研究開発の内容及びその成果の社会実装のイメージについて、分かりやすく情報発信を行うことが必要。</li><li data-bbox="172 1456 1430 1536">・F-REI として研究を進めていくため、委託研究からの移行も含め研究グループ体制整備を進めていくことが必要。</li><li data-bbox="172 1576 1430 1760">・研究開発の進捗状況等を踏まえつつ、県内での活動や実証フィールド等の活用が図られていくことを期待する。具体的には、再生可能エネルギーや水素を地産地消で面的に最大限活用するネットワークの形成に係る研究開発・社会実装を進めるために、福島県に拠点を構える FREA 等の関係機関との連携強化を期待する。</li><li data-bbox="172 1800 1430 1886">・今後、研究開発が本格的に進められるに当たり、研究開発成果については、業務実績によるアウトプットにとどまらず、アウトカム・インパクトを含めた自己評価が行われることを期待する。</li></ul>	

## 【NO.5】研究開発：放射線科学・創薬医療（自己評価書 P28～33）

評定（S、A、B、C、D）	B（自己評価：A）
<p data-bbox="172 275 459 309"><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p data-bbox="172 349 1430 533">以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められ、着実な業務運営がなされているため。</p> <ul data-bbox="172 573 1430 1061" style="list-style-type: none"><li data-bbox="172 573 1430 763">・「新産業創出等研究開発基本計画」（令和 4 年 8 月 26 日内閣総理大臣決定）、中期目標等を踏まえ、F-REI における研究課題の設定に当たっての方針を定めた「骨太の方針」を策定し、また、研究課題の調整・管理を担わせる分野長等を任命し、F-REI としての研究課題の立案に注力した。</li><li data-bbox="172 797 1430 987">・上記を踏まえ、具体的な研究課題を設定し、委託研究の公募・選定を行い、計 6 件の研究開発に着手（令和 6 年度の契約締結実績を含む。）するとともに、放射線発生装置（加速器）等の施設・設備等に係る検討を行うなど、設立初年度の取組として着実に進捗しているものと認められる。</li><li data-bbox="172 1021 1430 1061">・自己評価では A 評定であるが、以下に示す点について、更なる対応を期待したい。</li></ul> <p data-bbox="172 1126 379 1160"><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul data-bbox="172 1200 1430 2040" style="list-style-type: none"><li data-bbox="172 1200 1430 1435">・設立初年度であり、委託研究の公募・選定に時間を要したこと及び放射線発生装置（加速器）等の施設・設備等に係る検討を行っていることから、大半の予算を繰り越し、特に 5 件の委託研究については令和 6 年度に入ってから着手したところであり、令和 5 年度予算に基づく研究開発の取組が継続している状況である。今後、研究開発が本格的に進められるに当たり、適切な研究開発の進捗管理及び予算執行の適正化を図ることが必要。</li><li data-bbox="172 1469 1430 1559">・F-REI の取組に対する地域住民をはじめとした国民の理解を醸成していくよう、実施している研究開発の内容及びその成果の社会実装のイメージについて、分かりやすく情報発信を行うことが必要。</li><li data-bbox="172 1592 1430 1682">・F-REI として研究を進めていくため、委託研究からの移行も含め研究グループ体制整備を進めていくことが必要。</li><li data-bbox="172 1715 1430 1805">・本分野の研究開発を持続的に進めるための将来を担う学生や若手研究者を育成する体制の整備を進めていくことが必要。</li><li data-bbox="172 1839 1430 2040">・放射線発生装置（加速器）等の施設・設備等の整備に当たっては、研究開発の進捗状況を踏まえつつ、完成後の維持費用、運転人員の確保等も考慮の上、検討を進めることが必要。また、その他の施設・設備の整備に当たっては、本分野の特性を踏まえ、研究開発の社会実装を見据え、ベンチャーを含む企業との連携による新産業創出等を念頭に置いて検討することが必要。</li></ul>	

・今後、研究開発が本格的に進められるに当たり、研究開発成果については、業務実績によるアウトプットにとどまらず、アウトカム・インパクトを含めた自己評価が行われることを期待する。

## 【NO.6】研究開発：放射線の産業利用（自己評価書 P34～38）

評定（S、A、B、C、D）	B（自己評価：A）
<p data-bbox="172 277 459 309"><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p data-bbox="172 353 1430 533">以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められ、着実な業務運営がなされているため。</p> <ul data-bbox="172 577 1430 913" style="list-style-type: none"><li>・「新産業創出等研究開発基本計画」（令和 4 年 8 月 26 日内閣総理大臣決定）、中期目標等を踏まえ、F-REI における研究課題の設定に当たっての方針を定めた「骨太の方針」を策定し、F-REI としての研究課題の立案に注力した。</li><li>・上記を踏まえ、委託研究の公募・選定を行い、計 1 件の調査研究を実施するなど、設立初年度の取組として着実に進捗しているものと認められる。</li><li>・自己評価では A 評定であるが、以下に示す点について、更なる対応を期待したい。</li></ul> <p data-bbox="172 981 379 1012"><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul data-bbox="172 1057 1430 1572" style="list-style-type: none"><li>・放射線の産業利用分野において、F-REI として取り組むべき研究課題の設定に向けた調査・検討を速やかに進めることが必要。</li><li>・F-REI の取組に対する地域住民をはじめとした国民の理解を醸成していくよう、今後実施していく研究開発の内容及びその成果の社会実装のイメージについて、分かりやすく情報発信を行うことが必要。</li><li>・F-REI として研究を進めていくため、委託研究からの移行も含め研究グループ体制整備を進めていくことが必要。</li><li>・今後、研究開発が進められるに当たり、研究開発成果については、業務実績によるアウトプットにとどまらず、アウトカム・インパクトを含めた自己評価が行われることを期待する。</li></ul>	



**【NO.7】研究開発：原子力災害に関するデータや知見の集積・発信（自己評価書 P39～45）**

評定（S、A、B、C、D）	B（自己評価：A）
<p><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p>以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められ、着実な業務運営がなされているため。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「新産業創出等研究開発基本計画」（令和4年8月26日内閣総理大臣決定）、中期目標等を踏まえ、F-REI における研究課題の設定に当たっての方針を定めた「骨太の方針」を策定し、F-REI としての研究課題の立案に注力した。</li><li>・上記を踏まえ、具体的な研究課題を設定し、委託研究の公募・選定を行うなど、計13件の研究開発に着手するとともに、F-REI 唯一の研究グループである放射生態学ユニットにおいて環境動態研究に取り組むなど、設立初年度の取組として着実に進捗しているものと認められる。</li><li>・自己評価ではA評定であるが、以下に示す点について、更なる対応を期待したい。</li></ul> <p><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・設立初年度であり、委託研究の公募・選定に時間を要したことから、多くの予算を繰り越しており、令和5年度予算に基づく研究開発の取組が継続している状況である。今後、研究開発が本格的に進められるに当たり、適切な研究開発の進捗管理及び予算執行の適正化を図ることが必要。</li><li>・当該分野は、原子力災害からの復興と密接に関連した研究開発分野であり、自然科学のみならず社会科学の要素も含まれているところ、これらの研究の成果が今後の復興に活かされていくことを期待する。</li><li>・F-REI の取組に対する地域住民をはじめとした国民の理解を醸成していくよう、実施している研究開発の内容及びその成果の社会実装のイメージについて、分かりやすく情報発信を行うことが必要。</li><li>・F-REI として研究を進めていくため、委託研究からの移行も含め研究グループ体制整備を進めていくことが必要。</li><li>・研究開発の進捗状況等を踏まえつつ、県内での活動や実証フィールド等の活用が図られていくことを期待する。</li><li>・今後、研究開発が本格的に進められるに当たり、研究開発成果については、業務実績によるアウトプットにとどまらず、アウトカム・インパクトを含めた自己評価が行われることを期待する。</li></ul>	

## 【NO.8】研究開発環境の整備（自己評価書 P46～49）

評定（S、A、B、C、D）	B（自己評価：B）
<p data-bbox="172 275 459 309"><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p data-bbox="164 349 1430 533">以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められ、着実な業務運営がなされているため。</p> <ul data-bbox="164 573 1430 1084" style="list-style-type: none"><li>・施設整備に関しては、理事長等が復興庁主催のアドバイザリー会議にオブザーバーとして参加するなど施設基本計画への策定に参画した。</li><li>・設立初年度は、量子科学技術研究開発機構の放射線医学研究所福島再生支援研究部の施設統合により、F-REI 唯一の研究グループとして放射生態学ユニットを組織しており、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野における環境動態研究に取り組んでいる。</li><li>・研究者を支援する役割を担う RA について令和 6 年度からは 2 名（うち 1 名は海外人材）の体制を確保するとともに、F-REI の研究に関しての情報発信をはじめ複数の専門人材の公募を進めるなど、研究者が研究に専念できる環境の構築を進めている。</li><li>・自己評価書の B 評定との評価結果が妥当であると確認できた。</li></ul> <p data-bbox="172 1173 379 1207"><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul data-bbox="164 1247 1430 1659" style="list-style-type: none"><li>・設立初年度は、1 つの研究グループに留まっており、今後はユニットリーダー（PI）の公募も進めつつ、更なる国内外の優秀な研究者を確保し、委託研究からの移行も含め、中期目標期間中の 50 研究グループ体制の構築に向けた取組をより一層推進することが必要。</li><li>・分野長が不在となっている一部分野については、研究課題の具体化や研究の進め方等に係る調整・管理、研究グループの確保に向けた調整などを行うための体制の構築に向けて取り組むことが必要。</li><li>・F-REI 自らが行う施設・設備及び実証フィールド等の整備については、今後、本格的に研究開発が進められるに当たり、その進捗状況等を踏まえつつ、具体化が図られていくことを期待する。</li></ul>	

## 【NO. 9】 研究開発に係る情報収集等（自己評価書 P50～53）

評定（S、A、B、C、D）	A（自己評価：A）
<p data-bbox="172 271 459 304"><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p data-bbox="164 342 1430 472">以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて顕著な成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められるため。</p> <p data-bbox="164 528 1430 748">特に、設立初年度から、市町村座談会（浜通り地域等の 15 市町村全てで実施）や F-REI の研究分野に関連する研究者等との勉強会（計 10 回以上）、研究開発等 WG の開催等により、研究開発の動向や、地元市町村・企業・研究者等のニーズ・シーズの把握を精力的に進めたことは、今後、研究開発及びその成果の産業化を進めていくに当たっての基盤となる重要な成果として高く評価できる。</p> <ul data-bbox="164 786 1430 1240" style="list-style-type: none"><li>・福島県及びイノベ機構と密接に連携しつつ、理事長や役員等が浜通り地域等の 15 市町村全てを訪問して市町村座談会を開催し、研究開発及びその成果の産業化に向けた地元のニーズ・シーズの把握を精力的に進めている。また、そこから地域共通の課題を整理し、今後の F-REI の取組方針を明らかとするなど、把握されたニーズ・シーズを具体的なアクションに繋げるよう努めている。</li><li>・産学官ネットワークセミナーや新産業創出等研究開発協議会・研究開発等 WG の開催ほか、個別に、F-REI の研究分野に関連する研究者等との勉強会等を開催し、福島の復興・再生に貢献する研究開発のニーズ・シーズに係る情報収集等を進めている。</li><li>・国際アドバイザーとの意見交換、アドバイザーボードの開催等を通じて、国内外の研究開発動向等の把握も進めている。</li></ul> <p data-bbox="172 1301 379 1335"><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul data-bbox="164 1373 1430 1868" style="list-style-type: none"><li>・市町村座談会をはじめとした各種の施策について、令和 5 年度の成果・課題を踏まえて実施方法の工夫・改善を行い、より具体的ニーズ・シーズの把握等が効果的・効率的に進められていくことを期待する。</li><li>・様々な機会を通じて把握された福島の復興・再生に貢献する研究開発のニーズ・シーズや国内外の技術開発の動向等を分かりやすく整理・分析し、F-REI 内（分野長・副分野長等の研究者や RA 等を含む）で共有するとともに、外部の研究機関や研究者等が必要な情報を入手できるよう、適切に周知等を行うことが必要。</li><li>・把握したニーズ・シーズの施策への反映等を継続的かつ的確に実施することができるよう、F-REI 内の体制を整備するとともに、関係部署間における情報共有・コミュニケーションをきめ細かく行うことが必要。</li></ul>	

**【NO.10】 産業化に関する事項（自己評価書 P54～59）**

評定（S、A、B、C、D）	B（自己評価：A）
<p><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p>以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められ、着実な業務運営がなされているため。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・産学官ネットワークセミナーの開催（仙台市）のほか、福島県及びイノベ機構と密接に連携しつつ、理事長や役員等が浜通り地域等の 15 市町村全てを訪問して市町村座談会を開催し、地元市町村及び地元企業等との連携体制の構築や、研究開発及びその成果の産業化に向けた地元のニーズ・シーズの把握を精力的に進めている。</li><li>・市町村座談会で把握されたニーズ・シーズ（いわき市・バイオマス発電関係）が令和 5 年度の委託研究事業（「浜通り地域のバイオマス資源を活用したネガティブエミッション技術の実証研究」（コンソーシアムに市町村座談会の視察先となった常磐共同火力株式会社も参画））として実現される例が出るなど、既に具体的な成果も一部現れてきている。令和 6 年度は、ニーズ・シーズを深掘りするため、浜通り地域等でテーマごとの市町村座談会を開催するとともに、県内全域への効果波及と企業等との更なる連携に資するよう、福島県の主催するイノベ構想参画促進セミナーと共同で会津・中通り地域で合計 4 回市町村座談会を開催する方針を定めて計画を進めており、更なる連携体制構築や成果の発現等に繋がることが期待される。</li><li>・県内の経済団体等の会合に多数出向いて、F-REI の取組等に関する情報発信や関係構築を行うとともに、地元金融機関との包括連携協力協定を締結して、F-REI の認知度向上、地元企業とのネットワーク構築等を推進しており、研究成果の社会実装に資するネットワークづくりが着実に進んでいると評価できる。</li><li>・令和 5 年度の研究委託事業でも一定数の企業等が参画するなど、研究実施に当たっての産学連携体制も着実に構築されつつある。</li><li>・プレスリリース、英語を併記した HP、メルマガ、SNS などでの情報発信をこまめに行っているほか、設立記念シンポジウム、産学官ネットワークセミナー、エフレイフォーラムなどの F-REI 主催のイベントを開催し、理事長等から F-REI の設立趣旨・ビジョンや研究開発等の取組状況等を分かりやすく伝えるよう努めている。そのことが地元紙等において頻繁に F-REI に関する記事が掲載されることに繋がっているものと考えられる。</li></ul> <p><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・市町村座談会について、令和 5 年度の成果・課題を踏まえて実施方法の工夫・改善を行い、より具体的なニーズ・シーズの把握や、浜通り地域等以外を含めた幅広い地域との連携が効果的・効</li></ul>	

率的に進められていくことを期待する。

- ・地元金融機関との包括連携協定に基づき、金融機関の有するネットワークを活用しつつ、F-REIの認知度向上、地元企業とのネットワーク構築等につながる、具体的な取組が実施されることを期待する。
- ・令和6年度から研究開発が本格化していくことから、多様な実証フィールドの活用を含め、県内での具体的な活動がより一層推進することで、産業化に結び付けていくことを期待する。
- ・戦略的な知的財産マネジメントに向け、研究開発の進捗状況等を踏まえつつ、具体的なマネジメント方針の検討及び体制の整備を進めることが必要。
- ・広報・情報の発信等については、これまで実施した取組の効果等を把握しながら、より効果的・効率的な手段を検討するとともに、体制の整備を進めることが必要。特に、幅広い企業等に関心を持ってもらえるよう、実施している研究開発の内容及びその成果の社会実装のイメージについて、分かりやすく情報発信を行うことが必要。

## 【NO.11】人材育成（自己評価書 P60～64）

評定（S、A、B、C、D）	A（自己評価：A）
<p data-bbox="172 277 459 309"><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p data-bbox="165 349 1430 488">以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて顕著な成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められるため。</p> <p data-bbox="165 555 1430 689">特に、設立初年度から、人材育成等に関する連携協力に向けて大学等と基本合意書を数多く締結し、東北大学との間では連携講座の設置という具体的な取組にまで至ったことは、今後、継続的に研究人材等の育成を更に進めていくに当たっての基盤となる重要な成果として高く評価できる。</p> <ul data-bbox="165 730 1430 1765" style="list-style-type: none"><li>・大学院生等を対象とした人材育成について、学生が F-REI の先端科学の研究開発機能を活用しながら研究に取り組むことができるよう、令和 6 年 3 月 8 日に東北大学医学系研究科と放射生態学ユニット内への連携講座（放射線環境生体医学連携講座）設置に関する協定を締結し、人材育成の基盤の構築に寄与した。</li><li>・また、福島工業高等専門学校と連携協力に関する基本合意書を令和 5 年 4 月 1 日に締結し、相互の研究開発、人材育成等に関する連携協力を進めることとしたほか、福島県立医科大学、福島大学、会津大学、東北大学とも基本合意書等を締結し、それぞれ連携協力を進めている。</li><li>・地域の未来を担う若者世代を対象とした人材育成について、出前授業を、地元の高等専門学校のみならず、イノベ機構と連携し、県外の大学でも実施したほか、F-REI の役員等が講師となるトップセミナーを大学で 5 回、高専で 2 回、高校で 9 回行い、合計約 2,800 名が受講しており、最先端の科学技術の魅力と可能性等を学生・生徒へ伝えることで人材育成を推進した。また、小学生とその保護者を対象に、科学を身近に感じてもらうことを目的とした実験教室や、F-REI の研究者の指導の下、福島工業高等専門学校の生徒の企画による小中学生向けの学びの場を開催した。</li><li>・企業の専門人材等を対象とした人材育成について、放射性物質の分析業務に従事する人材の裾野を広げることを目的として、令和 6 年 3 月 28 日に福島浜通り地域に立地する廃炉関連の分析施設での現地訪問型研修を実施した。</li><li>・このほか、広く一般を対象としたエフレイ・フォーラムを開催し、F-REI の活動と研究成果を報告するとともに、地域社会や研究・教育機関で活動をされている方々と F-REI が果たす役割について議論を行った。</li></ul> <p data-bbox="172 1832 379 1863"><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul data-bbox="165 1904 1430 2038" style="list-style-type: none"><li>・初年度から設置された、東北大学医学系研究科との放射生態学ユニット内への連携講座（放射線環境生体医学連携講座）について、さらなる充実を図り、今後の同種の取組のモデルとして、先端的な研究開発の実施に不可欠な研究人材の育成が継続的に推進されることを期待する。</li></ul>	

- ・人材育成の組織的かつ継続的な実施に向け、教育機関等との基本合意書等について、既に締結した教育機関等と連携して取組の具体化を図るとともに、更に新たな教育機関等との締結を図ることで、連携協力が一層推進されることを期待する。
- ・出前授業や、トップセミナー、科学実験教室などの計画的な実施を図るとともに、関係機関との連携のもと、多種多様な学びの場を設けることを通じて、地域の未来を担う若者世代を対象とした人材の育成に係るエフレイの寄与が対外的に明確になることを期待する。その際は、特にこれからの地域の復興の主たる担い手となっていくことが期待される 20～30 代を対象とした取組の充実を期待する。
- ・企業の専門人材等を対象とした人材育成については、福島浜通り地域に立地する廃炉関連の分析施設での現地訪問型研修のように、地域のニーズに即した更なる専門教育・リカレント教育の展開に期待する。

**【NO.12】 人材確保（自己評価書 P65～68）**

評定（S、A、B、C、D）	B（自己評価：A）
<p><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p>以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められ、着実な業務運営がなされているため。</p> <p>特に、設立初年度から、連携協力に向けて大学等と基本合意書を数多く締結しつつ、国外の機関とも連携協力に向けた取組が進められているほか、研究者やそれを支援する専門人材等でも海外人材を確保したことは、今後、卓越した能力を有する海外の研究者等の確保を進めていくに当たっての基盤となる重要な成果として高く評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・F-REI 唯一の研究グループである放射生態学ユニットにおいては、設立初年度から環境動態研究を進めるための必要な研究者数を確保しつつ、外国籍の研究者も参画しながら取組を着実に進めている。また、ユニットリーダーの公募に当たっては、テニユアトラック制度の活用も視野に入れており、若手研究者の確保が期待される。</li><li>・研究者を支援する役割を担う RA について、令和 6 年度からは 2 名の体制を確保し、うち 1 名は海外人材を採用しており、国内外の研究者が研究に専念できる環境の構築を進めている。また、クロスアポイントメント制度を設立初年度から導入することで、国内外の優れた研究人材を確保するための基盤を構築している。</li><li>・F-REI 設立記念シンポジウム、ICRU 国際シンポジウム、エフレイ・フォーラム等の開催や海外機関や国際アドバイザー等との意見交換を通じて、国内外からの参加機関に F-REI の取組状況について情報発信している。また、国内大学等とも MOU（基本合意）等を 9 件締結して連携協力を進めつつ、パシフィック・ノースウェスト国立研究所（PNNL）との協力覚書の締結に向けた取組も進んでいるなど、今後の国内外の機関との連携を積極的に推進している。</li></ul> <p><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・シンポジウム等の開催や MOU 等の締結などにより構築された国内外の機関との連携体制を活かしつつ、人材確保に向けた取組を具体化することにより、国内外の優秀な研究者が確保されることを期待する。</li><li>・今後、サイエンスコミュニケーターをはじめとする、F-REI の研究開発等に関する情報発信を担う人材が着実に確保され、情報発信が充実していくことを期待する。</li></ul>	



**【NO.13】 研究開発等業務の運営の効率化に関する事項（自己評価書 P69～73）**

<p>評定（S、A、B、C、D）</p>	<p>A（自己評価：S）</p>
<p><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p>以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて顕著な成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められるため。</p> <p>特に、設立初年度から、各種セミナー等による産学連携体制の構築・ネットワーキングに向けた取組を精力的に進めたほか、目標を上回る 9 件の MOU 等を締結したことは、今後、F-REI のミッションを効率的・効果的に進めていくための基盤となる重要な成果として高く評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 2 回産学官ネットワークセミナーを開催し、東北地方の企業を中心に 76 社 156 名が参加したほか、浜通り地域等 15 市町村で市町村座談会を実施し、延べ約 250 名との多様な主体との対話を行い、産学連携体制の構築・ネットワーキング、広域連携体制の構築を図った。これらの成果を踏まえ、自治体・大学・高専・企業等と研究開発・人材育成等における連携、双方の資源を有効的に活用した協働活動等、締結先に応じた MOU（基本合意）や包括連携協定等を 9 件締結した。</li> <li>・マネジメント体制については、役員や分野長の任命等による体制整備を行うとともに、4 名の国際アドバイザー就任、4 名の国内有識者のアドバイザー就任により、外部の専門家・有識者からも助言を得る体制を構築した。加えて、理事長の求めに応じ、F-REI の業務について助言をいただく理事長特別顧問に 2 名の外部有識者が就任しており、これらの国際アドバイザーやアドバイザーなどから、運営全般に資する意見を得た。</li> <li>・セキュリティについては、国立研究開発法人協議会の分科会において情報収集を行ったほか、警察当局を講師とする先端技術の流出防止に関する講演を行うなどの取組を進めた。</li> <li>・契約に関する重要な事項を審査するため、契約審査委員会を設置し、随意契約に関する審査等を行った。特に契約額の多くを占めた委託研究の契約締結にあたっては、外部の専門家も交えた委託研究契約審査委員会を開催するとともに、役員会においても審査等を行い、適正性の確保に努めた。</li> <li>・福島特措法等に基づき、国際的に卓越した人材確保の必要性を踏まえて制定した、役員報酬規程及び給与規程（俸給表を含む）について F-REI のウェブサイトを通じて公表したほか、対国家公務員指数及び総人件費についても公表した（令和 6 年 6 月）。</li> </ul> <p><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの取組により、産学連携体制の構築・ネットワーキング、広域連携が図られつつあるところ、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」として、福島県内機関との更なる連携促進とあわせて、東</li> </ul>	

北のみならず全国、さらには海外の機関との連携を並行して進めていくことを期待する。

- ・効率的・効果的なマネジメント体制については、PDCA サイクルに基づく効果的・効率的な業務管理の推進を引き続き徹底する必要がある。また、国際アドバイザーやアドバイザーの助言等が機構の社会的認知度の向上や機構の活動の各方面への展開等にどのような形で貢献しているか可視化を図るとともに、機構が抱える様々な具体的課題に対して、より具体的な形で助言を求めるなど、国際アドバイザーやアドバイザーのより積極的な活用を期待する。
- ・セキュリティについては、国立研究開発法人協議会の分科会における情報収集や講習会の実施等を踏まえ、業務マニュアルの作成に向けて取り組むことを期待する。
- ・経費の合理化・効率化については、国民に対する説明責任の観点から、実績を点検するとともに、本評価結果を踏まえて、引き続き適切な予算執行体制の構築や合理的かつ効率的な予算の執行に努めることを期待する。また、契約に関し、契約審査委員会や委託研究契約審査委員会の開催などを通じて、引き続き適正性の確保に努めるとともに、随意契約の公表の徹底等を通じ、透明性や公正性の確保を図り、適切な契約締結体制の構築を進めることを期待する。
- ・人件費については、法に基づく国際的に卓越した人材確保の必要性といった機構の特徴に応じて必要な措置を講じていることにかんがみ、諸規程や給与水準、人件費等の各種情報の公開を通じた国民に対する説明責任の徹底を期待する。

**【NO.14】財務内容の改善に関する事項（自己評価書 P74～77）**

評定（S、A、B、C、D）	B（自己評価：B）
<p><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p>以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められ、着実な業務運営がなされているため。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・委託研究をはじめとして、所要経費の精査を適切に行い、効率的な事業実施・予算執行に努めている。</li><li>・産学官ネットワークセミナーの開催のほか、地元の商工会議所、商工会やその他経済団体での講演、地元金融機関との包括連携協定の締結等により、F-REI の認知度向上、地元企業のネットワーク構築等を推進しており、将来的な企業等との受託研究・共同研究の実施や寄附金の獲得に繋がることも期待される。</li></ul> <p><b>&lt;今後の課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地元金融機関との包括連携協定に基づき、金融機関の有するネットワークを活用しつつ、F-REI の認知度向上、地元企業とのネットワーク構築等につながる、具体的な取組が実施されることを期待する。</li><li>・産学官ネットワークセミナー、地元の商工会議所、商工会やその他経済団体での講演で構築された地元企業とのネットワークを活用し、さらに F-REI の活動紹介や情報交換を進め、研究資金の確保に向けた具体的な道筋ができることを期待する。</li><li>・放射生態学ユニットにおいて令和 6 年度厚生労働科学研究費補助金の応募を行っているが、その他の分野も含め、引き続き、研究資金の確保に向けた具体的な取組が実施されることを期待する。</li><li>・外部資金の獲得などを段階的・計画的に進めるためにも、研究開発分野で着実に成果が挙げられることが必要。</li></ul>	

**【NO.15】 その他研究開発等業務の運営に関する重要事項（自己評価書 P78～84）**

<p>評定（S、A、B、C、D）</p>	<p>A（自己評価：A）</p>
<p><b>&lt;評定に至った理由&gt;</b></p> <p>以下に示すとおり、F-REI の目的・業務、中期目標等に照らし、F-REI の活動による成果、取組等について、諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「新産業創出等研究開発の成果の最大化」に向けて顕著な成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められるため。</p> <p>特に、設立初年度から、国における施設基本計画の策定に参画したほか、適切な給与水準の設定をはじめとした人事に関する対応、情報システムの検討・整備、認知度向上のための広報・情報発信、多様な主体とのパートナーシップの構築等の各種取組を総合的に推進したことは、今後、F-REI のミッションを進めていくための基盤となる重要な成果として高く評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設及び設備に関しては、理事長ほか役職員が、復興庁主催の「福島国際研究教育機構施設の在り方に関するアドバイザリー会議」にオブザーバーとして参加して適宜意見を述べる等、施設基本計画への策定に参画したほか、東京出張所・いわき出張所を設置し、F-REI の本施設整備前においても、インハウス研究を実施できるよう、研究スペースとして利用可能な物件等の調査を行った。</li> <li>・人事に関しては、採用した職員の能力や成果に応じた給与の設定のほか、優れた研究人材確保に向け、研究職等の公募選考において、任期無しに移行できる有期雇用とするとともに、国立研究開発法人や国立大学法人よりも高い給与水準となり得ることを明示した。</li> <li>・情報システムの整備及び管理に関しては、F-REI の危機管理対応能力の向上を目的として、危機管理対応に係る講演を実施したほか、研究者が利用する LAN の構築の企画段階から、ゼロトラストアーキテクチャを採用するための検討を行った。</li> <li>・認知度の向上や多様なパートナーシップの構築に関しては、令和 5 年 4 月 15 日の設立記念シンポジウムの開催、令和 5 年 4 月 19 日の ICRU 国際シンポジウムの開催、令和 5 年 5 月 12 日の G7 仙台科学技術大臣会合の会場に設けられた復興庁展示ブースの枠内での F-REI の紹介や他のブース出展団体との交流など、国内外への認知度の向上を図った。また、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野でのまちづくりにおける研究に資するため、令和 6 年 2 月 22 日にワークショップを実施したほか、翌 23 日には、その活動と研究開発成果の発信の場として「エフレイ・フォーラム」を開催し、地域住民をはじめとした参加者への理解促進が図られた。また、同日別会場において、「今後の F-REI について若者世代と語る会」と題して、地域の高校生及び高専生 48 名に F-REI の若手職員も交え、浜通り地域の現状から今後の発展等やその中での F-REI に求められる取組等についてワークショップ形式での意見交換を行った。また、他団体主催の講演会等にも積極的に参加し、理事長をはじめ役職員が講演を 30 回以上行い、F-REI の概要等を説明した。</li> </ul>	

・広報に関しては、委託研究の公募及び委託研究事業の開始の際のプレスリリースをはじめ、F-REI の活動について令和 5 年度においては 72 回プレスリリースを行い、地元紙を中心に F-REI に関する記事が随時掲載等された。これにより、地域住民をはじめとする一般に向けた知名度の向上に努めたほか、F-REI 設立と同時に英語が併記されたホームページを整備し、情報発信をするとともに、公式 SNS 及びメールマガジンにおいても随時イベント開催などの情報発信を行った。加えて、F-REI に対する親しみと関心を高めるため、F-REI のロゴマークについて、公募や一般意見募集を実施して、令和 6 年 1 月に最優秀作品を決定した。特に、最優秀作品の表彰式については、第 2 回新産業創出等研究開発協議会と併せて開催することにより、広報効果を高めた。また、地域のイベントへのブース出展についても 9 回実施し、地域住民等への知名度向上へ努めた。

### ＜今後の課題＞

- ・施設基本計画を踏まえて今後進められていく各種施設・整備の整備に関し、機構内で適切な推進体制が構築されることを期待する。
- ・人事に関し、引き続き、優れた研究人材確保を可能とする柔軟な人事制度の構築及び運用に努めることを期待する。
- ・認知度向上や多様なパートナーシップの構築などの広報活動の強化に関しては、その前提として機構における持続的な推進体制の確保が必要である。また、機構そのものの認知度向上にとどまらず、今後の研究開発の進展に応じて、研究開発内容等の分かりやすい発信に心がけるとともに、具体的に多様な主体による研究開発への参画や産業化に向けた連携につながるような効果的・効率的な情報発信に留意する必要がある。関連して、実証フィールドを提供する自治体等に対して、研究開発の状況について分かりやすい情報発信に努めるとともに、今後の研究開発のシーズやニーズとのマッチングにつながることを意識した取り組みとなることを期待する。